

【What's 類型】

前回の ICT 活用通信 (NO4) で紹介した「類型」。まずは「A1」を紹介したいと思います。「A」は「一斉学習」を示しており、「1」は「教員による教材の提示」を示しています。図は文部科学省の「学びのイノベーション事業」実証研究報告書を引用しています。

ここが
POINT

- ・電子黒板を使って画像や動画を大きく映し出す。
- ・ポイントとなる部分をさらに拡大したり、映像に書き込みをしたりして分かりやすく伝える。
- ・実物投影機や書画カメラを電子黒板に接続して、手元の資料や実演の様子を映し出す

▶A1：教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

《ICT！（いまこそ、チェックタイム）》

- 電子黒板と教師用 PC を接続して資料を映し出すことができる。
- 電子黒板と端末（タブレットや書画カメラ等）を接続して、映し出すことができる。
- 映し出した画像の拡大・縮小ができる。
- 電子黒板のペンツールを使って画像に書き込みができる。

参照：「令和2年度版 とっとり ICT 活用ハンドブック」 鳥取県教育委員会

【 ICT 活用実践紹介】

【花里小の実践】

教科：朝活動

活用ツール：「ZOOM」

類型：一（強いて言うなら C4 につながる実践）

内容：全校集会

1. 【準備】教師が「ZOOM」を起動し。「会議室」を開設しておく。
2. 【準備】各クラスの担任に「会議室アカウント番号」を伝えておき、時間が来たら入室してもらう。
3. 発表する児童は体育館で発表を行う。

感想：電子黒板の大きい画面で見やすい。発表する児童も全校の前で話す緊張感を味わえた。

書画カメラを接続
→角度自由、画質良好



【岡田のおもいつ記】

今回の実践は、遠隔で双方向の交流ができるので、使えるようになると長期欠席の児童とも学校とのつながりを保つことができます。また、外部講師やゲストティーチャーと繋がればコロナ禍でも学習ができるし、他校とつながれば、調べたことを発信する学習ができます。実際に授業等で活用しようと思うと、教師は会議室の開設、児童は入室する技術が必要です。